



個人投資家からの
税制に関する要望

BEST 5



第5位

第5位

スイッチング（リバランス） 《NISA口座内での商品の入れ替え》

要望内容

NISA口座内で、保有商品を売却し、他の商品へ入れ替えると（**スイッチング(リバランス)**）、**その年の非課税投資額を新たに利用**することになります。**非課税投資額を消費せず**に、商品の入れ替えを**可能として欲しい**。

理由

誰でも初めてリスク商品を買うとき、何をどれだけ買ったらいいか配分に悩みます。

はじめに、お手軽なバランスファンドを購入したとしても、後に、自分の状況に応じたアセットアロケーションに変更したくなることもあります。

全体の配分を見直したくなったとき、リバランスできる権利が1年に1度でもあれば、安心してNISAをはじめられます。



第4位

第4位

「つみたてNISA」対象商品の見直し

要望内容

■ インデックス投信の信託報酬要件引き下げ（0.3～0.4%程度へ）

理由 現行要件は、主力商品の水準と比較して高め。商品を絞り込むことで、制度の使いやすさ向上につながる。

■ アクティブ投信の要件のシンプル化（信託報酬のみで十分）

理由 現行のアクティブ要件は複雑すぎる。さらに、採用時に基準をクリアしさえすれば、その後要件を満たさなくてもよいため（入口要件）、制度の公平性に欠ける。

■ 投資対象商品の拡大（投資経験などに応じて）

理由 投資商品まで規制すると、本当の意味での投資家が育たない。自ら勉強して商品を選択することで、自立した投資家が育ち、投資を楽しむこともできるのではないか。



第3位

第3位

NISA制度の一本化

要望内容

■ 現行NISA、ジュニアNISA、つみたてNISAの一本化

理由 3つの制度があるのは、わかりにくい。

現行NISAと、つみたてNISAどちらを選択するか悩まなければならず、煩わしい。

■ ジュニアNISAを、つみたてNISA方式と同様としてほしい

理由 現在のジュニアNISA制度は投資期間が短い（5年）。

より長期で積み立てられる制度が必要（学資の用意等のために）。



番外編

番外編

海外赴任者にもやさしい制度に

要望内容

- **海外赴任の際にも、現行NISA、つみたてNISAの口座を維持**できるようにして欲しい。**積み立ても継続できる制度**として欲しい。

理由 つみたてNISAの20年という長い非課税期間であれば、現代の会社員であれば、海外赴任になることが高確率で起こる。



番外編

番外編

NISAシニアプラスの新設

要望内容

■ 50才以上の株式資産（投資信託）の長期保有を優遇

(1) 一定額までの株式（投資信託）の配当を非課税にする。

(NISA枠を拡大して実現)

(2) 株式（投資信託）での遺産相続を一定額控除する。

理由

ボリュームゾーンである50歳以上の金融資産が、ある程度、長期投資に向かわないと、日本全体で見た金融資産における株式投資比率は増大しない。シニア層のニーズである、「配当」「相続」に焦点を当てた制度とすることで、株式資産ゼロ世帯も多いシニア層の、適切なリスク資産保有を促す。



第2位

第2位

つみたてNISAの投資上限額の拡大

要望内容

■ つみたてNISAの上限額（40万円）のUP

理由 リスクの少ない投信で長期運用できるのはメリットだが、上限額（40万円）は、現行NISAと比べ少なすぎる。40万×20年で800万円。資産形成の金額としては、これのみで完結できない。

■ つみたてNISAの上限額を、12で割り切れるようにして欲しい。

理由 12の倍数にしたほうが、毎月の積立金額を設定しやすい。



第**1**位

第1位

NISA制度の恒久化

要望内容

- **NISA制度の恒久化**
- **非課税期間の恒久化**

理由

- ・ 「貯蓄から投資へ」の実現のためには、恒久化が望ましい。
- ・ 制度変更の不安がある。
- ・ 有期だと、非課税期間終了後の出口戦略を考えなければいけない。
- ・ 売買のタイミングを制度が決めてしまうというデメリットがある。
- ・ NISAが終了したら、それに合わせて投資をやめる人がでてくる。

個人投資家からの税制に関する要望

BEST 5

- 1位 **NISA制度の恒久化**
- 2位 **つみたてNISAの投資上限額の拡大**
- 3位 **NISA制度の一本化**
- 4位 つみたてNISA対象商品の見直し
- 5位 スイッチング（リバランス）

《NISA口座内での商品の入れ替え》を可能に